



豊間根信 議員

医師確保

今後の医師常駐対応策

医師不足で見通しは立っていない

【質問】 町の医療の中心となる県立山田病院において、内科医が不在となり町民の皆さんの不安は増すばかりである。今日まで、町ではさまざまな対応策を行い、早急な解決を目指してきたと思うが、依然として先が見えない状況である。今後の医師常駐対応策は。

【沼崎町長】 内科医の転出情報を得て、直ちに県医療局、岩手医大に出向き確保を要請したが、絶対的な医師不足の現実の中、速やかに確保できる見通しは立っていない。関係機関や地域住民が一体となり現実を踏まえた対応を考えたい。

【質問】 さまざまな対応をしていることは理解するが、途中経過はどうであれ、町民にとっては今までどおり内科医が病院にいるということ、すなわち結果がすべてであると思う。他市町村の事例を参考に、町独自の施策をもって医師の確保を考えるべきでは。

【里館保健福祉課長】 他市町村独自の優遇施策・対応をもって医師招へいの成功例も認識しているが、先に町民の皆さんに現状を理解してもらい、現在の病院体制を維持する取り組みをしていくことが、医師確保の第一歩だと考える。

防災対策

地域の安全を守るには行政の力が必要 地域の実情を把握し防災対策に努める

【質問】 昨年9月定例会で、豊間根地域の防災対策について質問をした。100年に一回程度起こる大雨を想定し、地域防災計画の中に位置づけ、ハザードマップの作成および防災対策に取

り組んでいくと答弁したが、その後、どのように計画し実施したか。
【沼崎町長】 地域の現状などを把握する観点から地区説明会を開催し、洪水ハザードマップを21年度中に作成

する。防災対策として、20年度に自主防災組織育成事業により八千代地区自治会など5団体に防災機材を交付した。
【質問】 地域の皆さんの安全を守っていくには、行政の力が必要であり、防災機材の配布だけではなく、いろいろな形で対応すべきではないか。
【佐藤防災対策主幹】 有事の際は、的確に対応することが大切であり、日ごろの訓練と備えが大事である。今後、地域の実情を把握し機材配布を含め、より一層防災対策に努めたい。

町の考えを聞く



防災機材交付式で職員から機材の説明を受ける自治会の皆さん(本年2月の様子)